

平成26年度 社会福祉法人えどがわ事業報告

平成27年3月31日現在

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
保育運営から保育経営へ意識の転換	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の収支と保育ニーズを考慮し、4施設において1, 2歳児の運用定員の変更を行った結果、増員した定員数はすべて満員となり、収入増加、保育ニーズにも応えることができた。また、各園の教室事業契約や各種委託契約を見直し、委託契約のうち、一部は法人一括契約に切り替え、法人のスケールメリットを活かしたことにより、委託料を減額することが出来た。次年度も引き続き委託契約の見直しや集中購買等を進めていく。
人財の育成強化	<ul style="list-style-type: none"> 勤務に関する希望調査結果を基に職員の現状を把握、分析した。面談の必要性があると判断した職員については、個別に面談を実施。問題を検討し、異動や雇用区分変更等を行い、引っ越し等、やむを得ない理由を除き、退職を未然に防ぎ、貴重な人財を確保することができた。 平成26年度研修計画に基づき、階層別研修を実施した。同階層職員が階層に応じた研修を受講することで、能力の底上げにも繋がり、人財育成強化の一助となった。
体制の強化と広報活動	<ul style="list-style-type: none"> 職員募集は公募と共に退職した職員に働きかけ、再雇用に繋げたが、急な欠員の補充や次年度の職員数確保に留まり、緊急時のホート体制が確立できるほど職員を確保出来なかった。次年度についてもネットワークを広げ、緊急時ホート体制強化に努める。 ブログを活用し、情報を発信する機会が増えたことで、各園ホームページへのアクセス数も増えた。法人誌についても、園児の日常生活の写真を多く取り入れた企画を行い法人の「今」を多くの方に伝えることが出来た。

2. 職員状況

	H27. 3. 31職員数			採用			退職		
	正規	非常勤	合計	正規	非常勤	合計	正規	非常勤	合計
事務局	8	0	8	1	0	1	1	0	1
葛西	20	9	29	5	1	6	3	1	4
新堀	17	8	25	1	0	1	1	1	2
東小松川	19	11	30	2	0	2	0	1	1
鹿骨	23	11	34	8	2	10	3	3	6
北葛西	21	13	34	1	0	1	0	0	0
葛西第二	22	9	31	3	0	3	3	0	3
春江	21	15	36	5	2	7	4	0	4
東小岩	20	12	32	3	0	3	2	0	2
西篠崎	19	11	30	5	3	8	3	3	6
西小岩	22	12	34	2	2	4	1	2	3
松江	19	13	32	3	0	3	0	0	0
松本	20	12	32	3	0	3	0	1	1
清新	19	14	33	5	0	5	1	4	5
小松川	23	11	34	6	1	7	0	2	2
南葛西	19	13	32	3	1	4	1	0	1
西葛西	20	12	32	4	0	4	1	1	2
合計	332	186	518	60	12	72	24	19	43

3. 主な研修及び行事

4月	辞令交付式
5月	おひさま交流運動会
6月	法人懇談会 法人新任園長研修「保育園予算について」 法人新人研修「社会人としてのマナー」 法人研修「エピペンの使用方法・アレルギーについて」 平成27年度民営化園意見交換会(園長予定者発表)
8月	法人園長研修「今、地球に愛される保育園とは」
9月	平成27年度新規採用職員採用試験(第1回) 法人研修「心が豊かになる歌や手遊び」 平成27年度民営化園意見交換会(主任予定者発表)
11月	平成27年度新規採用職員採用試験(第2回) 法人主任研修「信頼できるチームワーク作りとは」 法人男性職員研修「保育園の中での役割・事例研修」 法人民営化研修「今求められる保育の役割」
12月	平成27年度新規採用職員採用試験(第3回)
1月	おひさま交流ドッジボール大会 法人研修「保育の視点を見つめる」 平成27年度民営化園意見交換会(担任予定者発表)
2月	法人事務局移転
3月	平成27年度新規採用職員オリエンテーション 法人研修「食を考える」

※その他、平成27年度民営化2園による民営化引継ぎ研修あり

※評議員会・理事会開催日及び法人研修日については別紙にて報告。

4. 苦情

苦情解決について平成27年3月31日現在、第三者委員会が召集される苦情なし。

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・保育目標の徹底と保護者への理解 ・組織力の充実と強化、専門職としての育成及び技術や知識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職としての必要な情報や安全管理(危険防止、投薬、アレルギー提供、感染症等)に対する話し合いを定期的に行った事により職員一人ひとりが共通の認識を持ち意識が高まった。 ・保育目標を保護者会や掲示、手紙等で都度伝えた事で保護者の会が中心となり、行事等協力が得られた。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援施設としての更なる機能充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てひろばや一時保育、ブログ等の状況等の評価分析を行いニーズの把握に努め、参加者増につながるよう取り組みを行ったことで、子育てに関する悩みや相談、入園希望も増えた。 ・近隣の老人ホームとの交流を定期的に進め、園の行事等にも参加して頂き、卒園式ではお祝いの言葉も頂いた。
<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備の意識強化 ・地域防災、防犯体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に近隣で火災が発生し迅速に避難する事が出来た。その中で改善策も見つかり、更に防災に対する意識が高まった。 ・防犯カメラ、電子施錠等設置を行った。

2. 養護

健康・病気

<ul style="list-style-type: none"> ・うがい手洗いを基本とし、室内の清掃の徹底や換気、室温等、また、感染症予防に対する近隣情報の収集や保護者へ注意喚起等を行った事により、感染症に感染する子どもが少なく、短期間で終息する事が多かった。
--

給食・アレルギー

<ul style="list-style-type: none"> ・8名のアレルギー対応食の提供を行った。提供ミスは一度も無かったが、「献立の表記ミス、調理ミス、異物混入」等、子どもの口に入る前の段階(確認)で未然に防ぐ事が出来た。 ・食育活動として、園舎前に季節の花や野菜、果物を栽培した事で登降園時に親子で成長を楽しむ姿が見られた。
--

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットやアクシデント報告を取りまとめ、分析、評価を行い、怪我や事故等の傾向を把握し、職員全員が危険予測の意識を高める事が出来た。 ・近隣で火災が発生し避難した事で災害の現実と直面し、職員の防災に対する意識が高まった。

3. 教育

<ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓、リトミック、英語、体育など年間を通じて定期的に行う。それらを子どもだけでなく職員も一緒に保育参観、発表会で発表の場を提供し、日頃の成果を保護者に見て頂くことにより、子ども一人ひとりの成長を促した。 ・特に和太鼓に関しては、当園の特色の一つとして保護者の方々に深く認知されるようになった。

4. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の登降園時や個人面談、保護者会、クラス役員会の中で保護者の要望や意見に対し、園の方針も理解して頂きながら柔軟に対応する事ができた。また、育児等の相談がある場合は随時話し合いを設け、保護者との信頼関係や関わりを深める事に繋がった。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
149 名	20 名	24 名	35 名	63 名	142 名

一時保育				
型名	スペース	型	定員	2 名
4～3月 登録人数	516 名	利用実績		682 名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	5 名	8 名	10 名	24 名	47 名
	3月	5 名	8 名	11 名	24 名	48 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		77 名	アレルギー対応人数		8 名	
	内訳	インフルエンザ		13 名	内訳	単品	5 名
		水痘症		0 名		複合	3 名
		溶連菌		20 名		エピペン対応	2 名
		その他		44 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	57 件	内訳	保育中	30 件	その他	27 件
----	------	----	-----	------	-----	------

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生状況				
	7 月 15 日	ハンカチ落とし中、鬼から逃げてる園児が勢い余ってロッカーにぶつかりそうになる。				
	発生場所	発生原因				
	保育室	保育室という狭い空間内で行ったため。また遊びに対する保育士の認識不足。				
	対象	検討内容と対応策				
5歳児	走る動作の遊びではぶつかる、転倒するという危険性があり、広い場所で行ったり、ルールを変えたり、ロッカーを移動させる等の危険性を十分に配慮し進めていく。					
2	発生日	発生状況				
	3 月 5 日	机が倒れ園児の足に当たりそうになった。				
	発生場所	発生原因				
	保育室	机の脚がしっかりと開いておらず、ストッパーが止まっていなかった。				
	対象	検討内容と対応策				
4歳児	机を使用する際にはしっかりと止めるという確認の徹底を行っていく。					

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	0 回	12 回	12 回	3 回	5 回	4 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
12 回	428 組	6 校	20 名	4 校	11 名	1 回	2 名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 保育の見直しを進め、一人ひとりの発達や育ちを大切にし、心身共に健やかに成長出来るように環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりが日々の保育や研修を通して自分の保育の振り返り等を行い、話し合い保育に対する自信を深めた。 子どもや職員の動線を考慮し棚等の整理を進め、より過ごし易い環境を整えた。 発達に遅れのある子どもの関わりは、専門職を配置し職員に対してアドバイスをもらい、安定できる環境を整備した。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者と園児の育ちに共感を持ち、丁寧な対応を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの質問や意見等を受け、全職員で共有するように努めた。一人ひとりが自分から子どもの事を保護者に話し掛け、保護者と共に成長や子育てを共感できるよう、関係を作った。
<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価に基づき、園運営や職員の意識の共通理解に努めていく。 防災対策 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートの結果を踏まえ職員間で話し合いを持ち伝達、報告、確認の徹底を繰り返し伝った。 防災対策として非常食の確認を行い、保護者への理解や協力を得るため、試食や消火訓練を実施したことにより、防災への意識向上に繋がった。

2. 養護

健康・病気

- 年間を通じ流行性の感染症にかかる子どもが多かった。特に耳下腺炎、水痘、インフルエンザが多かった。
- 手洗いうがいの励行は基より空気清浄器、空間除菌剤の活用、早めの対応と感染に対する対処の仕方の確認を行なった。

給食・アレルギー

- 食育活動を全園で取り組みとして、栄養士からの食に対する話を聞いたり、四季折々の野菜を栽培し収穫する経験をする事により、食事に対する意欲に繋がった。
- アレルギーに関して、幼児は職員が直接給食室に取りに行き、乳児はワゴンで提供されることで給食室より目視、口頭で伝達を受け、事務所で再度応答、目視での確認を行うことにより、誤配誤食の防止に努めた。

危機管理

- ヒヤリハットに基に検証報告を行い、事故を未然に防ぐことを目標に、一つひとつ意識の共有を図った。
- 不審者の侵入を未然に防ぎ、抑止力のため防犯カメラを設置した。

3. 教育

- 体育、音楽、英語を通し、身体を動かす楽しさや異文化に触れる機会を多く持ち、それぞれの時間を楽しみにしている姿が見られた。また、保育参観や行事を通して成果を観てもらえるようにしている。お遊戯会を自園開催にしたことにより「子ども達の表情や気持ちがあくみ取れて感動した」と感想をもらった。

4. 家庭支援

- 子育てひろばや行事等、地域の方と子育てや地域の行事についての繋がりが出来、継続して行っていく工夫を感じた。お年寄りに切り絵のカード作りを教えてもらったり、職員がコースージュ作りを教わる機会があったが、先方の健康状態との相談なので無理せず行っていきたい。
- 保護者とのコミュニケーション作りも進み何でも話し相談できる環境が出来てきている。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
112 名	20 名	23 名	23 名	47 名	113 名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	5 名	5 名	4 名	11 名	25 名
	3月	4 名	6 名	3 名	12 名	25 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		158 名	アレルギー対応人数		8 名	
	内訳	インフルエンザ		43 名	内訳	単品	4 名
		水痘症		23 名		複合	4 名
		溶連菌		22 名		エピペン対応	0 名
		その他		70 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	21 件	内訳	保育中	14 件	その他	7 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日					発生状況				
	10 月 21 日	1,2歳合同で園庭でボールを追いかけていて、鉄棒におでこをぶつけた。					発生原因				
	発生場所	園庭					前を見ていなかった事と鉄棒のそばに職員がついていなかった。				
	対象	2歳児					検討内容と対応策				
	鉄棒を職員が意識して立ち位置を考える。 鉄棒に取り外しの出来る安全カバーをする。 (発泡スチロールのカバーを付けた。)										
2	発生日	12 月 9 日					発生状況				
	発生場所	4歳児保育室					発生原因				
	食器を持って立ち上がった時椅子に引っ掛かり転倒。割れた食器の上に倒れたため、首を切った。					検討内容と対応策					
	対象	4歳児					片付ける時の食器の数を、子の力や大きさを考慮し、少しずつ運ぶように指導する。 椅子からきちんと立ってから食器を持つ。				

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	1 回	13 回	12 回	1 回	11 回	5 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
15 回	78 名	2 校	2 名	3 校	13 名	13 回	75 名

平成26年度 東小松川おひさま保育園事業報告

平成27年3月31日現在

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none">・人材育成と職員の資質向上・保育内容の充実・さまざまな体験ができるような保育のプログラムの作成	<ul style="list-style-type: none">・リーダー会議、乳児幼児会議等を通して、各行事や日常保育のあり方について話し合い、内容について全職員が発言する場を作った。また、子どもの様子や家庭状況も継続的に話し合い、保育内容の向上に努めた。・外遊びの中で川遊び等、四季を感じられるような活動を心掛けた。
<ul style="list-style-type: none">・安全管理、防災・防犯に努める・保育室の環境整備の見直し	<ul style="list-style-type: none">・継続して様々な事例を想定し避難訓練を行った。また、警察の協力のもと、不審者訓練を行い、安全管理に努めた。防犯カメラや電気錠を導入した。・園内各所の小規模の修繕も継続して行った。特に遊戯室のエアコンのオーバーホールや1歳児保育室のエアコン入れ替えた。
<ul style="list-style-type: none">・子育て支援と家庭支援の充実・継続的な実習生等の受け入れ	<ul style="list-style-type: none">・子育てひろばを行い、在園していない家庭が保育園を体験することで、地域子育て支援に取り組んだ。・専門学校等の実習生だけでなく、特別支援学級の学生や地域のボランティア等、幅広く受け入れを行い、人材育成に努めた。

2. 養護

健康・病気

- ・7月に水痘症が多く流行した。その他の感染症については発生しなかった。園内において感染症と疑われる子どもについては、お迎えまでの時間を個別に保育するなどし、感染の予防拡大防止に努めた。
- ・通院を要する怪我や事故も数件発生しており、事故報告を踏まえ状況の把握と分析を行い、再発防止に努めた。

給食・アレルギー

- ・アレルギー申請児が11名内、2名がエピペンを持参している。家庭と給食業者と保育園が連携をとり、職員間でもアレルギー児に関する園内研修を行い、誤食や事故等が起こらないよう努めた。
- ・食育活動の一環として野菜栽培や収穫を行うこと、また、給食業者と協力し、うどん作りや魚の解体ショー等を行い、食への関心を育んだ。

危機管理

- ・園指定の避難場所を再考し、より子どもを迅速かつ安全に避難ができるよう変更し周知した。
- ・万一の時に備え、近隣の公共施設と連携し津波の対応として訓練時に4階まで避難訓練を実施。
- ・保育士は、不審者等の侵入に対応する為に笛を携帯し、緊急時に備えた。

3. 教育

- ・講師によるリトミック、和太鼓等を年間を通して継続し、表現活動の一環として取り組んだ。5歳児クラスにおける和太鼓については、発表できる機会を設けるため、生活発表会にて行い、年度末には、和太鼓おさらい会を通して全園児の前で1年間の成果を発表した。

4. 家庭支援

- ・一時保育は、毎日予約で埋まっており、年間500名を超える利用があった。子育てひろばについても、300人を超える家庭の参加があった。
- ・一年を通して、入園希望の見学も多く、極力個別に対応し、相談等を受けやすいようにした。
- ・在園児保護者に対しても、1日保育士体験を行い、参加した保護者の方により保育園を理解していただいた。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
100 名	17 名	22 名	24 名	46 名	109 名

一時保育				
型名	専用室	型	定員	4 名
4～3月 登録人数	635 名	利用実績	508 名	

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	1 名	5 名	3 名	6 名	15 名
	3月	1 名	3 名	2 名	7 名	13 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		95 名	アレルギー対応人数		11 名
	内訳	インフルエンザ	8 名	内訳	単品	6 名
		水痘症	45 名		複合	5 名
		溶連菌	18 名		エピペン対応	2 名
		その他	24 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	37 件	内訳	保育中	35 件	その他	2 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日					発生状況				
	7 月 29 日	手を洗い終え、イスに座る際に、バランスを崩し転倒。									
	発生場所	発生場所					発生原因				
	保育室	手を洗った際、イスに座ろうとしている本児の事をしっかりみていなかった。									
	対象	検討内容と対応策									
2歳児	保育士がどの位置につくのかを考え、全体の様子が見られるようにしていく。椅子に座るとい動作だが、動き方によっては大きな怪我に繋がる可能性もある事を常に意識しながら保育していく。										
2	発生日	発生日					発生状況				
	1 月 26 日	緑道沿いを自由歩きしている際に、前を見ていなく、石につまづき川へ転落。									
	発生場所	発生場所					発生原因				
	親水緑道沿い	自由歩きをしていたため、保育士の目が行き届かなかった。									
	対象	検討内容と対応策									
1歳児	緑道を散歩する際に、川に近い場所では、手をつないで歩く。自由歩きをする際、保育士が必ず目の行き届くようにしていく。										

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	1 回	13 回	12 回	3 回	11 回	5 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
23 回	306 名	5 校	5 名	1 校	3 名	16 回	9 名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 園児一人ひとりの成長を踏まえ、安心した環境の中で伸び伸びと過ごす。 外遊びの充実と体力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 保育室を含め施設内全体の使用方法の見直しを行い、3階部分を保育室として使用したことで、これまで発熱時は保育室で過ごしていた子ども達を保育する静養室を作った。 園外活動においては、近隣公園の特性を踏まえ、年齢や活動により使用する公園等の選定を行い充実した外遊びを展開した。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者とのコミュニケーション 子育て支援事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 特に新採用職員と保護者との伝達内容やニュアンスの違いからリーダー職員のフォローが必要であったが積極的な言葉掛けにより改善が図られた。全体的には、全職員に対して個々の様子を細かく保護者へ伝えられるよう心掛けた。 子育てひろばでは英語遊びへの参加が多く好評であった。
<ul style="list-style-type: none"> 安全対策、危機管理、防災対策の強化 建物の修理、補修 	<ul style="list-style-type: none"> 施設内での危険場所の点検や保育室内の環境改善等を重点に行なう。特に園庭を自転車置き場へ開放する場合の対応については実施に向けた計画を作成した。また、老朽化を原因とする配管の破損による漏水や壁の崩壊、電気系統及び配線の不具合が著しく、都度の対処療法ではなく抜本的な改修が必要。

2. 養護

健康・病気

<ul style="list-style-type: none"> インフルエンザや溶連菌等の感染症が疑われる発症児を静養室にて養護することで、他児との接触を避けることができるようになった。また、お迎え時に保護者より個別に静養、対応している様子で安心されている声が聞かれるようになった。 感染予防の取組みとして、マニュアルの見直しを行うと共に職員側の対応方法を再確認し、統一を図った。

給食・アレルギー

<ul style="list-style-type: none"> 年齢に沿った盛り付けによるおかわりの撤廃については、繰り返し保護者へ説明を行なっているが、おかわりの要望は多く聞かれている。 配膳時において外廊下を通ることで衛生面について不安があり、部分的な改善では解決に至らず建築上の改修が必要。 アレルギー献立の事前確認においては、原書式を持って保護者、栄養士、職員それぞれが確認出来ている。

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 保護者の危機管理に対する意識が高く、ピアノの転倒防止の指摘や避難方法等、クラス懇談会にて全保護者へ周知説明を行った。また、引取り訓練の内容も実際に起きたことを想定し、引渡し者の確認、子どもの伝達及び引渡しを行った。 転倒等事故、怪我の発生時は、即時報告及び検証、再発防止に向けた職員で意見交換をし、共有した。ヒヤリハットについても同様。

3. 教育

<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びについては、年間計画、月別計画を明確にするよう話し合い、職員主体のリズム遊びを実施した。今後はこれまでの内容に加え体育の実践を行って行く。今年度末に保護者へ意向の説明を行ったところ、保護者からの要望も高かった。
--

4. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 2回の子育てひろばであるが、英語遊びへの問い合わせや参加が多くなっている。参加者への聞き取りにて近隣のおひさま保育園で実施している同広場を併用している方が多いようである。 在園児保護者との関わりにおいて、面談ができる場所を設置したことで、相談内容を他者に聞かれることがなくできるようになった。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
150 名	30 名	29 名	31 名	65 名	155 名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	6 名	2 名	7 名	10 名	25 名
	3月	7 名	1 名	6 名	9 名	23 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		190 名	アレルギー対応人数		14 名
	内訳	インフルエンザ	57 名	内訳	単品	10 名
		水痘症	71 名		複合	4 名
		溶連菌	20 名		エピペン対応	1 名
		その他	42 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	87 件	内訳	保育中	87 件	その他	0 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日					発生状況	
	5 月 2 日	園庭遊びをしている時にシャボン玉を追いかけテラスに走っていき転倒、柱にぶつかった。						
	発生場所	発生場所					発生原因	
	テラス	テラス					行動変化の予測及び的確な声掛けがされなかったため。	
	対象	対象					検討内容と対応策	
3歳児	3歳児					土曜日保育の進め方を話し、乳児・幼児が同じ時間帯に遊ぶのではなく時差をつけ危険がないようにする。又、行動予測を図り怪我の防止に努める。		
2	発生日	発生日					発生状況	
	5 月 30 日	他児を叩き追いかけられトイレに走って逃げ、入口付近から保育室に戻ろうと振り返った際ステンレス部分の淵に頭をぶつけた。						
	発生場所	発生場所					発生原因	
	トイレ入口	トイレ入口					保育室を出て行ったこと、その直前に起きていたトラブルを重要視していなかった。	
	対象	対象					検討内容と対応策	
4歳児	4歳児					園児の行動と子どもたち一人ひとりの状況に気づき、すぐに対応・援助していくことの重要性と職員同士の声を出し連携を図っていくことを話しあった。		

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	1 回	12 回	12 回	1 回	8 回	7 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
26 回	136 名	6 校	8 名	3 校	13 名	0 回	0 名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 設備点検及びメンテナンスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> テラス、バルコニーの床シートの張替え、2階踊り場の格子戸修理を実施。より安全な環境を整えた。 非常食用備蓄棚を新たに設置し、管理の徹底をした。
<ul style="list-style-type: none"> 園外活動における安全確保 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の病院建設工事に関しては、散歩ルートを変更して危険回避に努めた。 公園での環境確認等については、職員同士声を掛け合い意識を高め、徹底した。 公園を借りての運動会練習時はテントを持参し、熱中症対策等、子ども達の体調管理に配慮した。
<ul style="list-style-type: none"> 個別対応、体育活動、行事等に対するスキル・ステップアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な研修に参加し知識を深め、職員一人ひとりが保育に自信を持ち保育に活かすことが出来た。 会議や昼礼の中で個別対応について話し合い、その都度、子ども達の状況に応じた配慮を行い、園全体での子ども達一人ひとりの把握、対応に努めた。

2. 養護

健康・病気

- 感染症については、年間を通して溶連菌感染症が多く、完治後しばらくして再び同じ子どもが感染することあった。
- 保育室、ホールに空気清浄機を設置し、感染予防に努めた。発症の際は、保護者への周知を速やかに行い、感染の拡大が抑えられるよう配慮した。

給食・アレルギー

- 食育は給食業者と連携を取りながら、年齢に応じた活動を取り入れ、食に関する興味、関心、マナー等、子ども達の意識を高めることができた。
- アレルギー食の提供は、複数の目での確認や席の固定等配慮し、間違いの無いよう職員全体で把握をした。

危機管理

- 乳児用防災ずきん、職員用ヘルメットを新たに用意し、防災意識を高めるよう避難訓練時に使用した。近隣の専門学校屋上への津波に備えての避難訓練実施。
- 非常食の在庫確認をし、アレルギー児用の米粉乾パンを購入した。また、持ち出し用非常食を災害時すぐに取り出せるよう、飲料水を事務所内に準備した。
- BCP研修への参加と、保育士防災担当者の任命。

3. 教育

- 体育教室は10月に講師の交代があり引継ぎを行い、大きな混乱もなく実施した。職員が自らに取り組むという意識も高まった。
- 英語を体験で3回取り入れた。子ども達の意欲も高く、楽しむ様子が見られ、次年度は定期的実施していく。
- 4,5歳児の保育交流の機会を増やしたことで、お互いに学び合い、心の成長へと繋がった。

4. 家庭支援

- 一時保育は、新規の登録者が85名。毎月必ず利用する家庭も多く、担当職員への信頼も高まり、子育てに関する相談にも応えている。
- 子育てひろばでは、在園児と様々な形で触れ合うことで、和やかな雰囲気の中楽しんでいる様子が見られ、入園に関する質問も多かった。
- 子育てに関するセミナーの紹介や情報の提供を掲示にてお知らせした。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
144 名	24 名	27 名	31 名	61 名	143 名

一時保育				
型名	スペース	型	定員	2 名
4～3月 登録人数	480 名	利用実績	413 名	

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	3 名	6 名	7 名	16 名	32 名
	3月	3 名	6 名	8 名	15 名	32 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		142 名	アレルギー対応人数		9 名	
	内訳	インフルエンザ		22 名	内訳	単品	2 名
		水痘症		3 名		複合	7 名
		溶連菌		63 名		エピペン対応	0 名
		その他		54 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	44 件	内訳	保育中	41 件	その他	3 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日				
	4 月 25 日	食後の薬を飲ませ忘れた。				
	発生場所	発生原因				
	保育室	保育士同士で連携が取れていないことで、確認しないまま子どもを寝かしつけてしまった。				
	対象	検討内容と対応策				
全園児	薬の預かりがある場合は、しっかり担任同士で伝達や確認を行い、互いに声を掛け合う。また、色マーカー等、目立つように登降園名簿への記入や貼り紙をして目に付くようにする。					
2	発生日	発生日				
	10 月 16 日	ホールへ移動する際、人数確認を忘れ、クラス内のトイレに1名残っていることに気付かなかった。				
	発生場所	発生原因				
	保育室他	全体の人数確認を行ってなかった。部屋やトイレに誰も残っていないか、最終確認が出来ていなかった。				
	対象	検討内容と対応策				
全園児	移動の度に、必ず人数確認を行う。確実に人数が揃っていることを伝え合い、担任全員でしっかり把握をする。最後に部屋を出る職員は、トイレ等まで最終確認を行う。					

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	1 回	12 回	12 回	4 回	25 回	8 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
16 回	501 名	8 校	10 名	2 校	5 名	0 回	0 名

平成26年度 葛西第二おひさま保育園事業報告

平成27年3月31日現在

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none">保護者支援と信頼関係心身の発達と体力の向上	<ul style="list-style-type: none">園の保育方針を明確にすると共に情報を早くわかりやすく保護者へ伝える事で園、個々の状況の共有を心掛けた。保護者との関わりを担任ひとりで抱えることなく園全体で対応できるようにした。体育、リズムを通し、しなやかな身体作りを行い、また、積極的に散歩の機会を設け足腰の強化を図った。
<ul style="list-style-type: none">地域支援	<ul style="list-style-type: none">子育てひろばは月2回実施。年間参加人数591名となり、昨年度を上回る結果となった。低年齢層の参加を見越しての計画が良かった。2年目を迎えた一時保育は定着し、今後も個々のニーズに応えていく。近隣の老人ホームとの交流は無理なく続けていきたい。
<ul style="list-style-type: none">安全対策と危機管理	<ul style="list-style-type: none">定期的に設備や遊具の点検を行い安全を確保していった。他園の事故報告を自園に置き変えて園内研修を実施。事故の再発がないように職員の意識を高めた。警察署の協力を得て交通安全指導、防犯訓練を実施した。ヒヤリハットを通し、日々の保育の振り返りを行った。

2. 養護

健康・病気

- 1月から3月にかけて溶連菌感染症33名、インフルエンザ24名感染。感染情報を細かく保護者へ知らせ、家庭と園とで体調管理を行っていった。
- 12月から2月の長期にわたり頭ジラミに感染した児20名(年長児及び兄弟関係)接触を避け、衛生面に配慮するも拡大を防ぐことが出来なかった。

給食・アレルギー

- 食育として野菜を栽培、収穫し、それらを調理し食する事で食への興味関心を高めていった。
- 食育計画を進めるにあたり、給食業者と話し合いの機会を多く持ち、子ども達に適した食育活動を提供した。(うどん、クッキー、デコレーションケーキ作り、野菜の皮むき等)
- アレルギー対応児9名。誤食のないよう栄養士との声出しの確認、職員の意識を高め安全に提供出来るよう細心の注意を払った。

危機管理

- 毎月避難訓練を実施、振り返りを行うことで安全面での強化を図っていった。
- 防犯訓練として警察担当者による指導を受け、刺股等を使い、実際に想定しての話し合いの中で職員が共通認識を持てるようになった。
- 消火訓練を行い、職員全員が消火器の使い方を習得した。
- ヒヤリハット75件、昼礼、会議にて報告検討を重ね、危機管理の意識を高めた。

3. 教育

- 幼児クラスの取り組み、英語、リズム、体育あそびは子ども達に定着し活動を楽しんでいる。
- 1年を通し小さな行事を大切に保育に取り込み、四季折々の季節を感じ取れるような工夫をしてきた。
- 健康、体力作りに力を入れ、戸外あそびの充実及び散歩を多く取り入れた。
- 運動会、大きくなったねの会を通し、目標に向かい頑張る姿勢を養い発表する事で個々の自信へと繋げた。

4. 家庭支援

- 保育室、事務所に園での様子や子育てに関するお便り、配布物等を掲示し情報を伝えた。
- 保護者が想いを発信しやすいよう、事務所を開放的な雰囲気にするなど環境を整えた。
- 職員間で保護者の情報や様子を共有し、必要に応じた支援を心掛けた。
- ブログの更新回数を増やし、園での生活を保護者や地域の方へ発信した。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
124 名	20 名	24 名	27 名	53 名	124 名

一時保育				
型名	スペース	型	定員	2 名
4～3月 登録人数	80 名	利用実績		294 名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	3 名	3 名	0 名	8 名	14 名
	3月	3 名	3 名	1 名	9 名	16 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		85 名	アレルギー対応人数		9 名
	内訳	インフルエンザ	24 名	内訳	単品	5 名
		水痘症	4 名		複合	4 名
		溶連菌	33 名		エピペン対応	0 名
		その他	24 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	75 件	内訳	保育中	49 件	その他	26 件
----	------	----	-----	------	-----	------

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日				
	10 月 18 日	昼寝のゴザの上に画びょうが落ちているのを保育士が発見した。				
	発生場所	発生原因				
	保育室	押入れ側面の除湿シートを留めていた鋸が外れた。				
	対象	検討内容と対応策				
	押入れで鋸が外れ布団に付着し外へ出た可能性もある。 鋸の部分のみ養生テープで保護していたが 全面を養生テープで保護し鋸が外れないようにした。 定期的に確認をしていく。					
2	発生日	発生日				
	3 月 24 日	門の開閉中にボールが外へ出てしまいボールを追い子どもが飛び出そうとした。				
	発生場所	発生原因				
	園庭	門が開いている事に保育士が気づかず遊びを継続してしまった。				
	対象	検討内容と対応策				
	散歩に出るクラスが園外へ出る時の出来事だった。 今回の場合においては担当が門の開閉に気づき遊びを一度停止する配慮が必要だった。保育士は常に周りの状況を的確に判断できるようにする。					

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	1 回	12 回	12 回	5 回	20 回	9 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
24 回	591 名	3 校	6 名	2 校	8 名	32 回	23 名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園が楽しい、と思える毎日をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう」と感謝を伝える言葉を職員や子どもたち、保護者とも伝えあえる関係作りを心掛けた。 ・畑での体験を中心とした保育の実践を通して、子ども達の「知りたい」「やってみたい」という気持ちをを引き出し楽しみに繋げた。
<ul style="list-style-type: none"> ・相手を思い、受け止める信頼をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育のねらい、思いをすり合わせる機会を作り、リーダー層、行事担当者、学年担任、各部会、係り活動などで、自分の考えが言えること、相手の意見に耳を傾けることが出来るよう会議の進め方を工夫した。事例検討や実践報告など会の内容を工夫することで、新人職員でも発言しやすい環境作りを心掛けた。
<ul style="list-style-type: none"> ・安心して預けられる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上手すりのさび止めと塗装、雨漏り修理等、園舎の修繕を行った。保護者から「園舎を大切に使っている」という意見をいただく。改修や修理等見える化をすることで保護者の安心に繋がった。 ・葛西警察署の協力で子ども達と一緒に防犯訓練の実施。 ・BCP計画を今の実情に合うよう策定の見直しを行った。

2. 養護

健康・病気

<ul style="list-style-type: none"> ・しらみの感染。他の家庭への協力依頼、保育園での観察を丁寧に行い感染拡大防止に努めた。 ・熱性けいれんによるダイアアップについて、自宅で発作を起こすケースもあり、家庭での状況を聞き取り、職員への情報の共有を行った。 ・ヒヤリハットの報告件数23件。ヒヤリハットの意識の低下から年度の後半はほとんど報告がなかった。再度、ヒヤリハットの報告の大切さを確認したい。

給食・アレルギー

<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児12名(内エピペン2名預かり)法人エピペン研修への参加。エピペンへの対応として園内研修を実施。実際にアナフィラキシーショックが起きた場合を想定し、医師を招いた模擬訓練を実施した。3月30日、4歳児女児、おやつ後アナフィラキシー症状がで、緊急対応の結果事なきを得た。また、給食献立の書式変更への理解を時間をかけて行う。保護者理解、職員理解、業者理解を大切にしたい。
--

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> ・毎年夏に実施してきた津波(高潮)訓練を今年は冬に計画を立てる。しかし、一之江第2小学校が冬休み中であること、寒さによる子どもや職員の体調不良から実施を中止する。来年度以降、冬場の訓練をどのように実施していくかが課題。3月の避難訓練では、3.11の教訓を想定した訓練を実施。午睡中であることから着替えをどうするか、アレルギー児への対応をどのようにするかを考えた訓練を実施する。引き渡しも予想されることから総合訓練として今後の課題となる。
--

3. 教育

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの何を育てたいのか、一人ひとりの育ちをどのように伝え合うかを、いつも職員と確認しながら保育を進めた。リズムでは自ら体を動かし、講師と話し合いながら進めた。話が聞けること、年齢ごと、または年齢を超えて見せ合えること、動きを意識すること。しなやかな体と心を育てるリズムの実践の進め方を職員自らが考えた。

4. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> ・園庭解放参加者が少ない。掲示板やホームページでのお知らせの工夫が課題。保育園が地域の中にあるための積極的な発想の転換が必要。子育てひろばでは、在園児との交流を積極的に取り入れた。中学校吹奏楽部のとの交流(夕べのコンサート)は、普段なかなか音楽に触れる機会の少ない家族の交流の場となった。世代を超えて一緒に歌う機会は、文化の伝承ともなり、保育園の地域の役割を実感した。
--

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
157 名	24 名	27 名	34 名	71 名	156 名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	4 名	6 名	5 名	15 名	30 名
	3月	4 名	6 名	5 名	21 名	38 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		150 名	アレルギー対応人数		12 名
	内訳	インフルエンザ	22 名	内訳	単品	6 名
		水痘症	11 名		複合	6 名
		溶連菌	35 名		エピペン対応	3 名
		その他	82 名		エピペン使用回数	1 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	23 件	内訳	保育中	20 件	その他	3 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日					発生状況				
	12 月 16 日	クリスマス会のキャンドルサービスの練習中に、ろうソクの火が前髪に移り、髪が焦げる。									
	発生場所	発生場所					発生原因				
	ホール	持ち方の周知と火に対しての怖さを伝えきれていなかった。本児が落ち着かず、集中できなかった。									
	対象	5歳児					検討内容と対応策				
	火やろうソクの特徴を伝え、注意を促すと共に、持ち方や行事の臨み方を確認していく。キャンドルサービスの仕方を再確認する。										
2	発生日	発生日					発生状況				
	11 月 6 日	2階部屋前テラスで遊んでいた時、女兒が鉄柵から足を出した際靴が脱げ落ちた。									
	発生場所	発生場所					発生原因				
	2階テラス	足を出さないよう繰り返し伝えていたが、やっていた。上履きのサイズが大きすぎるかった。									
	対象	2歳児					検討内容と対応策				
	鉄柵から足を出さないよう、繰り返し伝えていくとともに、2歳児なりに理解できるように理由も伝えていく。保護者にサイズの合った靴の用意をお願いしていく。										

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	13 回	1 回	1 回	12 回	12 回	3 回	36 回	5 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
10 回	100 名	4 校	4 名	2 校	10 名	4 回	5 名

平成26年度 東小岩おひさま保育園事業報告

平成27年3月31日現在

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none">充実した遊びの環境を整える。意識を持って園内研修に望む。	<ul style="list-style-type: none">乳児玩具を見直し、手作りの良さを活かした玩具を導入したことで、成長に合わせた遊びを取り入れることが出来た。今後も乳児、幼児共に取り入れていく。月反省を行う事で子どもの状況を職員同士が把握し、見守り、援助が出来た。また、園内研修を行う事で保育に繋がりが持てた。
<ul style="list-style-type: none">保育園の活動や行事を通し、保護者と園児の育ちを共有する。	<ul style="list-style-type: none">保護者会内で保護者とのフリートークの時間を設けた事で家庭での悩みを共有出来た。また、保護者同士の関わりの場となり良かった。保護者支援事業の「ほっとタイム」は、保護者と共有の場となっている。今後、更なる利用者増加のため、曜日等を検討していく。
<ul style="list-style-type: none">安全管理危機管理	<ul style="list-style-type: none">防犯を考え、事務所横通路は日中施錠を実施。保護者には手紙、口頭で伝え、協力を得られた。通用門のオートロック施錠に加え、鍵の徹底を保護者へ手紙、口頭で伝えている。様々な想定を考え、避難訓練を行い、保育士が危機管理を持ち、安全対策に努めた。

2. 養護

健康・病気

- 感染症発生時、保健ボードに感染症の特徴、現在の人数を掲示。家族に感染者が出た場合は通用門で引渡しをお願いした。
- 感染症予防対策として、給食委託業者協力のもと、手洗い指導を全園児行った。
- ヒヤリハットはその都度話し合い、情報の共有・再発防止対策の共有に努めた。

給食

- 給食会議を通して委託業者と連携を図り、子ども達の食の状況やアレルギー児の対応について共有し、給食の提供に努めた。
- アレルギー児は同じカテゴリーで2名。アレルギー食確認票をもとに給食室、事務所、担任の目で確認し、安全に対する意識を高めた。

危機管理

- 防犯訓練を行い、犯人を刺激せずに他職員に知らせる方法や通報の仕方。また、防犯器具の使い方について指導を受け、防犯対策の意識を高めた。初めて参加する職員は訓練でも硬直する傾向にあるため、日々の確認、訓練を必要とする。
- BCPの再確認、見直しを行い、実践に繋げていく。非常持ち出し袋の中味の確認、非常食の確認を徹底し、災害時に備える。

3. 教育

- 竹馬指導においては、親子で製作する事で竹馬の仕組みを知り、竹馬に乗る事で体幹が鍛えられると共に、自分なりの目標を持って継続する力を養えた。また、友達、異年齢児、保育士、保護者と喜びや大変さを共有する事で人間関係の分野においても教育の一貫となった。
- 個々の情緒、発達の状況を捉え、日々の活動、行事の目標を設定し、取り組んできたが、遊びの環境設定、園児の心を受け止め、肯定的な関わりをするなど専門性を高めていきたい。

4. 家庭支援

- 子育ての悩みを抱えている母親が多く、担任や園長との面談を重ね気持ちに寄り添いながら、細かい変化を見逃さないよう心掛けた。
- 子育てひろばで園内の誕生日会と一緒に参加して頂き、子育てひろばに参加している誕生月のお子さんを祝う事や在園児との触れ合いを喜び、参加者が増加の傾向にある。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
113 名	17 名	20 名	24 名	50 名	111 名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	5 名	18 名	37 名	20 名	80 名
	3月	6 名	24 名	39 名	30 名	99 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		83 名	アレルギー対応人数		2 名
	内訳	インフルエンザ	19 名	内訳	単品	2 名
		水痘症	33 名		複合	0 名
		溶連菌	2 名		エピペン対応	0 名
		その他	29 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	98 件	内訳	保育中	97 件	その他	1 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日					発生状況	
	11 月 20 日	5歳児クラス給食配膳時、メロンの変色を発見。						
	発生場所	発生場所					発生原因	
	5歳児保育室	給食室で切り分けた際に気付かず、保育室に提供。						
	対象	検討内容と対応策						
5歳児	栄養士と仕入れ業者との鮮度の確認。 切り分ける際の鮮度の確認。 今回、配膳前確認を行っていた為、大事には至らなかったが、今後も配膳前に確認し、二重の目で対応する。							
2	発生日	発生日					発生状況	
	3 月 3 日	保育室で他児とカーテンの後ろに隠れた時。						
	発生場所	発生場所					発生原因	
	1歳児保育室	カーテン内での場所の取り合い。						
	対象	検討内容と対応策						
1歳児	カーテンをきちんと縛り、園児が隠れられるスペースなど死角を作らない。 職員の配置に留意し、園児の位置を把握し、隠れる状況が起こる前に止める。							

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	1 回	12 回	12 回	1 回	34 回	4 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
26 回	315 名	4 校	4 名	5 校	9 名	12 回	19 名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育、一時保育、子育て支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育は、異年齢児が関わりを持ちながら遊びを勧めることで落ち着いて過ごせた。 ・一時保育は、決まった職員が対応することで子どもの様子がわかり、安心して保護者に利用してもらえた。 ・子育て支援では、在園児と一緒に製作や活動をした。その中で育児の相談などを聞くようにした。
<ul style="list-style-type: none"> ・給食 ・虐待の対応 ・感染症対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を育てることや調理に関わることで、食べ物や食べることに興味を持ち、苦手なものも食べようとするようになった。 ・子ども一人ひとりの様子や保護者への関わりを細やかに行い、小さな変化にも気づけるようにした。 ・研修を通して感染症の知識や認識の確認をした。
<ul style="list-style-type: none"> ・運動、表現、言語遊び ・異文化との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上と健康維持のため、朝体操を年間を通して行った。乳児は、リズム運動を行うことで基本的な動きに対応できる身体作り、幼児は、マラソンやドッジボール等に取り組んだ。 ・様々な素材を使って造形遊びを行い、作品展で多くの方に鑑賞いただいた。 ・いろはかるたで言葉遊びをし、発表する機会を作った。

2. 養護

健康・病気

- ・季節ごとの感染症は、数名あったが感染症を保護者に周知することで、手洗いうがいなどで予防して、蔓延することはなかった。
- ・保健だよりを配布することで保護者に季節ごとに流行する感染症を知らせ、情報を提供した。

給食・アレルギー

- ・食材を作り、触れ、調理する機会を作り、給食業者より、献立について手紙をもらったことで食べる意欲や食べ物について興味を持つようになった。
- ・アレルギー児の献立を3者チェックし、提供の際は、給食室、園長、担任が確認サインすることで提供の間違いがなかった。

危機管理

- ・年間を通しての避難訓練では、いつ、どこで、どんな時にでも災害は起きることを想定しての訓練を行った。警察による不審者訓練を行い、対応の方法や園児を守る方法を職員全員が学んだ。また、実際に非常用すべり台を使っての訓練や消火器を使っての訓練を行った。

3. 教育

- ・乳児は年間を通してリズム運動を行うことで、身体面だけではなく様々な機能の発達へ繋げた。
- ・異年齢児の遊びを通して、子ども達が発展できる遊びの提供に努めたが、環境設定が整えられなかった。
- ・体操活動で行った取り組みを日々の保育の中に取り入れ、戸外遊びを充実させて身体機能の発達を促した。
- ・異国文化に触れたり感じたりする機会を取り入れられなかった。

4. 家庭支援

- ・様々な保護者へ対応できるように園内研修を行い、職員一人ひとりが意識を持って対応した。保護者会では、保護者同士の関わりが持てるよう、少人数で話をする時間を設けた。日々のお迎えの際に保護者に声をかけ積極的に関わりを持っていくよう心掛けた。保護者からの相談は、個別で対応し、解決できるように努めた。
- ・子育て支援では、未就園児の子どもたちが参加しやすい内容や時間を設定し、在園児と一緒に活動できるようにした。外掲示板やホームページを利用して広く呼びかけをした。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）					一時保育				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計	型名	スペース型	型	定員	2名
120名	20名	24名	26名	53名	123名	4～3月 登録人数	98名	利用実績		453名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	0名	24名	24名	87名	135名
	3月	0名	20名	24名	88名	132名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		69名	アレルギー対応人数		12名
	内訳	インフルエンザ	19名	内訳	単品	1名
		水痘症	17名		複合	11名
		溶連菌	7名		エピペン対応	1名
		その他	26名		エピペン使用回数	0回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	57件	内訳	保育中	55件	その他	2件
----	-----	----	-----	-----	-----	----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日				
	4月15日	アレルギー児が、他児の除去されていないおやつを食べてしまった。				
	発生場所	発生原因				
	保育室	アレルギー児を座る席にしっかりと誘導せずに、座らせてしまった。				
	対象	検討内容と対応策				
2歳児	幸い少量だったことと、家でもつなぎ程度の卵は接種しているとのことで大事には至らなかった。おやつ前でクラス全体が落ち着いていない状態で配膳したこと、職員間での確認声かけが実行されていなかったため、職員間の声かけとアレルギー児の席には職員が必ず付くようにする。					
2	発生日	発生日				
	11月4日	保育室の鍵が開いていて、玄関まで出てしまった。				
	発生場所	発生原因				
	保育室	保育室の鍵を閉め忘れた。				
	対象	検討内容と対応策				
1歳児	鍵は、必ず閉めること、一人ひとりが閉まっていることを確認、子ども的人数を確認すること。					

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12回	12回	1回	1回	12回	12回	5回	43回	6回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
21回	300名	4校	10名	2校	8名	0回	0名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりの知識、技術等、資質、保育の向上 職員の連携、意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の研修希望を基に外部研修に参加し、研修報告会、園内研修を重ねることで職員の知識や技術向上に繋がった。今後は、階層別グループ研修にも力を入れていく。 職員会議をはじめとする各会議等で共通理解を図り、行事等の確認を丁寧に行なった。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者との信頼関係の構築 保育園情報の発信と共有 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な家庭の実情を把握し、職員一人ひとりが細やかな対応を心掛け信頼関係の構築に務めた。課題として職員が意識を持ち保護者との関わりが出来るよう取り組む必要性を感じた。 情報発信については保育活動をブログや園内掲示で様子を伝え、好評であった。
<ul style="list-style-type: none"> 地域子育て支援の充実 危機管理対策の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろば、一時保育利用者の相互の取り組みを繰り返し伝えていくことで多くの方の利用に繋がった。 危機管理対策の強化では、関係諸機関との連携を図り、訓練を行い取組んできたが、今後も継続し訓練に臨みたい。また、BCPの見直しを図り、職員が力を合わせ取り組めるよう周知をしたい。

2. 養護

健康・病気

日々の視診、触診を丁寧に行ない子どもの体調変化に気を配り、感染症が流行すると感染が長引く傾向にあるため、異変があった時は保護者に連絡し早期対応ができるよう取り組んだ。特に幼児クラスはうがい、手洗い指導を丁寧にすすめる習慣づけ出来るようにした。後期に頭づらみが発症し、昼寝時の十分なスペースの確保、シーツやタオルの持ち帰りの協力を頂き保護者へ周知し、感染拡大に努め3月に入り終息した。同時期にマイコプラズマ肺炎感染もあり、室内環境の整備、玩具消毒等を丁寧にすすめた。

給食・アレルギー

毎月の給食会議にて、職員、栄養士と共に、喫食状況の報告や献立の確認を行った。各年齢の発達に応じた食育活動が行えるよう、栄養士と連携を図り、様々な食材に触れ関心が深められるようにした。
アレルギー児の食事提供については、誤食、誤飲を防ぐよう声掛け、書面などを用い職員、栄養士、園長が複数でチェック、確認、提供の際も声掛けを行ないながらすすめた。

危機管理

ヒヤリハット報告は昼礼等で随時行ない、再発防止に努め改善できることは対処した。
毎月の避難訓練では反省を基に次月に繋げ、一人ひとりの役割等を丁寧に確認し行ない意識向上に繋げた。災害時のBCPについては、見直しを掛けながら職員の共通理解を更に深め今後も役立てていけるようにしたい。園門にマグネットロックは設置しているが、保護者の開閉についてのルールが徹底できない事があったので、今後の周知方法などを検討し安全に利用できるようにしたい。

3. 教育

年齢や発達に応じた内容や個々の発達に繋がるような遊びの提供、自発的な遊びに繋がるよう環境を整えていった。体育の取り組みでは身体機能の発達や体力増加に繋がるよう講師と共に連携を図りすすめる、達成感が味わえるよう援助した。異年齢児交流保育では、異年齢が関わる中で優しさや感謝の気持ちが少しずつ育まれ楽しい時間になるよう職員が連携して進めた。異年齢児との関わりが苦手な子は担任の居るグループに分けるなど配慮し活動に取り組めるようにした。異文化交流の英語遊びでは全学年が体験し楽しい時間が持てた。

4. 家庭支援

様々な状況が多い家庭が多い中、職員が個々をしっかりと把握し、それぞれに必要な援助や助言をすすめていった。保護者の相談などは随時、個人面談を行い軽減できるように取り組み、保護者と一緒に考え援助することで、信頼関係の構築に繋がっていったと感じるので、今後も継続していく。また子の発達、発育相談など保護者の希望があれば臨床心理士との個別面談等も行ない連携を図った。入園前見学は可能な限り希望の日程で個別に随時行ない園の理解を深めて頂いたことで子育てひろば、一時保育の利用児も増えた。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）					一時保育				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計	型名	スペース	型	定員	2名
165名	27名	30名	35名	73名	165名	4～3月 登録人数	85名	利用実績		200名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	8名	6名	2名	13名	31名
	3月	6名	10名	1名	14名	31名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		名	アレルギー対応人数		11名	
	内訳	インフルエンザ		33名	内訳	単品	9名
		水痘症		8名		複合	2名
		溶連菌		4名		エピペン対応	0名
		その他		34名		エピペン使用回数	0回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	123件	内訳	保育中	121件	その他	2件
----	------	----	-----	------	-----	----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生状況				
	4月7日	プール側テラス柵付近のコンクリート配管が飛び出して設置してあり、一部が欠けていて怪我に繋がる恐れがある。				
	発生場所	発生原因				
	プール側テラス	コンクリートの劣化によるもの。				
	対象	検討内容と対応策				
	怪我に繋がらないようにコンクリート劣化部分をタオルで覆い、カバーを行い、怪我に繋がらないように努めた。					
2	発生日	発生状況				
	11月20日	園児の食後の薬の与薬を忘れた。				
	発生場所	発生原因				
		複数担任が共に与薬が済んだと思い込んでしまった。				
	対象	検討内容と対応策				
3歳児	職員同士の声掛け、確認が不足していたのでお互いが意識すると共に職員会議にて与薬の際のマニュアルを再確認した。					

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12回	12回	1回	1回	24回	12回	7回	32回	14回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
24回	362名	9校	10名	5校	14名	9回	4名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 各年齢の発達や一人ひとりの成長を十分に理解し子ども達と向き合う保育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が目標をしっかり持ち、子どもと向き合う大切さを認識、保護者への対応や連携を取るよう心掛け、成果も十分あった。特に就学までの重要性を全職員が話し合い保育園生活の必要性を共通認識した。
<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろば、一時保育は保護者にも満足して頂くよう職員創意工夫を重ねていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろば、一時保育は地域に定着した事として大切なものであると共に、自身のキャリアアップにも繋がる保育を成長させるものなのでステップを大切にしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 安全対策や整備環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 改修工事等で使いやすい環境が整ったが安全面で急な修理が必要であり、破損が生じ、予想外の改修もあり、本来思うような修理が進まず、平成27年度に課題が残された。また、防災関係では、近隣のマンションに津波警報の際の協力を得てきたが実際には耐震面で夏より工事が始まり強度の安全は確保された。

2. 養護

健康・病気

<ul style="list-style-type: none"> 朝の受け入れ時に詳しく様子を聞く事を徹底した。感染症の周知も徹底した。 溶連菌はかなりの人数が患い、同じ感染症を繰り返す児も数名いて対策が取り難く今後の課題である。

給食・アレルギー

<ul style="list-style-type: none"> 給食は月に1回の会議や法人管理栄養士の声掛けもあり、給食業者との連絡が密に出来るようになってきた。しかしながら混入物があったりしたため、安全管理を徹底して欲しいと要望。 アレルギーの複雑な児は間違いのないよう配慮し、乳幼児の食について職員同士で今まで以上意識を持っていきたい。

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策、薬品取扱いの意識向上、BCPの作成等兼用する事が出来た。また、小さな気づきを大切にしてヒヤリハットは細かな部分も活用し皆が検討し活かして行きたい。

3. 教育

<ul style="list-style-type: none"> 教育の部分に関しては職員に繋げるという事で大事にしなければならない部分で26年度にはリズム遊びを大切にしていたが、和のリズムを取り入れ子ども達に積極的に関わりをもてるようにして、より良い結果が得られた。

4. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろば、一時保育は定着してきているので沢山の方にご利用頂いている。専任で職員を決めているので保護者の方にもご理解頂いている。子ども達も十分職員に慣れていて職員が専任で対応したことにより好評を得た。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
116 名	19 名	22 名	24 名	55 名	120 名

一時保育				
型名	専用室	型	定員	4 名
4～3月 登録人数	90 名	利用実績	392 名	

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	3 名	4 名	1 改 修	6 名	14 名
	3月	3 名	5 名	1 名	6 名	15 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		139 名	アレルギー対応人数		5 名
	内訳	インフルエンザ	9 名	内訳	単品	4 名
		水痘症	1 名		複合	1 名
		溶連菌	50 名		エピペン対応	0 名
		その他	79 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	63 件	内訳	保育中	56 件	その他	7 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日					発生状況	
	9 月 9 日	鉄棒をしたおり、降りようとした時手が付けずに落下し鎖骨を地面に打ち付ける						
	発生場所	発生原因						
	園庭鉄棒	鉄棒の使い方を説明したが落下時手が付けなかった						
	対象	検討内容と対応策						
5歳児	鉄棒に正する使い方を園内研修して頂き、職員が自ら示めるようにした。							
2	発生日	発生日					発生状況	
	11 月 13 日	東小松川1丁目公園で鳩を追いかけていて段差から転落した。						
	発生場所	発生原因						
	公園	段差付近の職員配置が十分されず近寄らないよう声掛けが無かった						
	対象	検討内容と対応策						
1歳児	公園への散歩は十分下調べをして職員間の打ち合わせは確実にを行う。							

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	2 回	12 回	12 回	12 回	22 回	5 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
21 回	281 名	6 校	15 名	5 校	19 名	2 回	2 名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの育ちに寄り添い、活動や生活の環境を整えより豊かになるような発達の援助 健康 	<ul style="list-style-type: none"> 会議の中で子どもの成長や関わりを職員が共有し、保育に活かした。 乳児は手作り玩具や園庭に木製遊具の設置、幼児はカプラや竹馬等により活動が広がった。 リズム遊び、散歩、ホールや園庭で遊ぶなど体を動かす活動を多く取り入れた。継続をしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者理解を深める。 地域支援への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と面談や日々の会話を通じて、適切に受容、助言をして信頼を深めるよう努力したが更に工夫が必要である。 活動の様子を写真掲示したり、HPで保育内容の伝えた。 ポスター掲示や情報誌を発行をしたり、子育てひろばや出前保育を行い地域の親子に喜ばれた。 保育ママを招き、交流を深めるきっかけ作りをした。
<ul style="list-style-type: none"> 安全対策の強化 虐待の対応 職員の連携、保育の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は時間や発生場所等、様々な災害を予想し実施した。また、近隣の中学校の協力を仰ぎ、津波を想定した訓練も出来た。玄関の門を修理して、安全対策を行った。 関係機関と連携し様々な状況に応じて、子どもや家庭の支援を心がけた。 園内研修では実践的な内容から保育力の向上に努めた。

2. 養護

健康・病気

- インフルエンザ、水痘、溶連菌等感染症が見られたが、ボード掲示により感染症を未然に防ぐよう心掛け保護者の協力により蔓延を防ぐことができた。
- 子どもの体調の変化をこまめに連絡し、受診をすすめ、体調管理に努めた。
- アレルギー除去食は、給食委託業者と連携を取り園全体で共通認識をし、確認を繰り返す事で誤食なく提供できた。
- 保健に関する研修に参加し、知識を深めた。

給食・アレルギー

- 食材に触れて皮むきやおにぎり作りなどの食育活動を行い楽しんだ。
- バイキングや戸外でお弁当を食べる経験は給食委託業者と連携し行った。
- 喫食状況や提供方法など栄養士を含め給食会議を行い、内容は業者会議でも検討してもらい、よりおいしい給食を提供した。

危機管理

- ヒヤリハットは記録して、タイムリーに職員間に報告し、共有するようになったことで重篤な怪我に繋がらなかった。
- BCP策定に向け、準備をはじめた事で検討点が明らかになった。
- 不審者対応訓練は警察の協力のもと、実践的な訓練をした。

3. 教育

- 散歩、リズム遊び、体操など体力作りを心掛けた。
- 異年齢児での活動を年間で計画して行った。
- 日常生活の中で挨拶や衣服の着脱、身辺処理の自立を促せるようすすめた。
- わくわくでは、英語講師を迎え異文化に触れたり、小学校音楽教諭による歌唱指導、観劇を行い、子ども達の興味や関心を育めるよう心掛けた。
- けん玉やお手玉、竹馬などの遊びに興味を持ち、繰り返し練習する集中力を養った。

4. 家庭支援

- 地域の情報をこまめに掲示板で提供することで、興味を持つようになった。
- 障碍児の保護者と園児の状況を情報交換し、お互いに成長を喜び関係が深まった。
- 支援が必要な保護者に対しては、関係機関と連携を図り、現状を把握しながら声をかけ子どもの育ちを支えた。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
136名	18名	26名	30名	61名	135名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	0名	1名	4名	4名	9名
	3月	0名	3名	3名	6名	12名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		151名	アレルギー対応人数		4名	
	内訳	インフルエンザ		8名	内訳	単品	3名
		水痘症		32名		複合	1名
		溶連菌		16名		エピペン対応	0名
		その他		95名		エピペン使用回数	0回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	68件	内訳	保育中	67件	その他	1件
----	-----	----	-----	-----	-----	----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日					発生状況				
	8月20日	噛み付きを幾度もしようとす未遂に終わっていたが最後は自分の手を噛んだ。									
	発生場所	発生場所					発生原因				
	保育室	玩具の取り合い、場所争い。									
	対象	検討内容と対応策									
1歳児	部屋の移動をした後の保育士の動きと、遊ぶスペースの確保を検討し、本児の噛み付きが起こりそうな場面では、特に保育士が近くで見守るよう確認した。										
2	発生日	発生日					発生状況				
	10月17日	子どもが巧技台の、小さい太鼓橋の下をくぐり、太鼓橋が持ち上がり外れそうになった。									
	発生場所	発生場所					発生原因				
	園庭	遊ぶ際の約束が浸透していない。									
	対象	検討内容と対応策									
5歳児	遊ぶ際の事前の固定遊具の安全確認と、遊ぶ際の約束を検討し、子どもたちに徹底するよう話をした。										

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12回	12回	1回	0回	46回	15回	10回	44回	3回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
15回	208名	2校	6名	1校	5名	7回	8名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・明日も来たいと思える保育園 ・子どもの自発性、主体性を活かした保育を大切にする保育園 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日笑顔で子ども達に通えるように保育の充実と共に職員のスキルアップを心掛けた。その中で講師と連携したリズム遊びや男性保育士による体育教室を定期的に取り入れ体幹を鍛えたり健康な身体作りに努めた。また、1歳児クラスの部屋を低、高月齢に分けることにより一人ひとり丁寧な保育をすることが出来、幼児期の自発性、自主性へと繋げた。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域から頼られる保育園 ・地域の関係機関や近隣とのネットワーク作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回程度の子育てひろばや講座を行う中で、在園児との交流を持ち、地域の方々に園の様子を理解して頂き安心してもらえるよう努めた。また、近隣の公立保育園との交流として合同避難訓練に参加。使用頻度の多いエレベーター学習会に参加し交流を持った。地域のふれあいまつりに参加し、ネットワークを広げる活動に取り組んだ。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもも大人も生き生きとしている保育園 ・安心、安全の保育園 ・防災 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の中で様々な情報を共有しお互いを認め合い相談できる関係づくりを心掛け、職員同士の連携や情報提供に対し意識づけが出来た。全職員で全園児を保育する意識を持ち、保護者との信頼関係を築けるよう努めた。 ・安心・安全な保育園作りとして、防犯カメラの導入、安全強化を図り、大人の目による二重体制で子供の命を守る。

2. 養護

健康・病気

・園内で感染症が出た場合、保護者への周知を素早く行い蔓延予防に努めた。また、必要に応じて通院をすすめた。吐しゃ物の処理についての園内研修を行い、全職員が処理の仕方を統一し対応を出来るようにすることにより二次感染の防止に努めた。特に朝の視診、触診の時間を大切にし保護者との連絡をしっかり行い、子どもたち一人ひとりの体調管理に努め子供のサインやSOSを早期発見できるよう意識を持った。保育室は室温、換気、掃除、消毒、空気清浄等、環境整備に努めていったことで、重篤な病気になることなく安心して日々の生活を送ることが出来た。

給食・アレルギー

・アレルギー児の給食に対しては、誤食のないよう十分に気を付けた。そのために保護者との面談には栄養士、園長、主任、担任が一緒に行い、共通の認識の基、アレルギー献立の確認や提供前の何重ものチェックを徹底した。

・食育は、夏野菜の栽培、野菜の皮むきやおにぎり作り、年長児はクッキーやスイートポテト作り等を行うことで食に対する興味や関心を高めることが出来た。また孤食が多い中、保育園という集団の利便性を活かして皆でテーブルを囲み同じものを食べる楽しみや喜びを味わえるように心掛けた。

・ヒヤリハットは93件であったがその都度、朝、昼礼や会議等で情報を共有しながら職員一人ひとりの意識を高め、改善策を話し合い再発防止に努めた。

・園舎内の施錠を徹底することで不審者対応及び子ども達が園舎から出てしまうことを防ぐようにした。また職員一人ひとりが子どもの動きや人数把握に意識を持ち、対応するように努めた。

・警察による職員対象に防犯訓練を実施した。その中で更なる対応として刺股の本数を増やした。全職員が知識を持ち不審者対策に対応できるように今後も定期的に訓練を行う。

3. 教育

・天気の良い日は広い園庭に出て、伸び伸び身体を動かすことにより体幹を鍛え、体力作りに繋がった。また、自然豊かな近隣の公園への散策も多く取り入れたり、夏野菜の栽培をし、季節を感じ感性を伸ばせるようにした。体育教室では意欲を持ち自信を伸ばした成果を運動会や保育参観等で保護者の方にご覧頂いた。子どもの意欲をより高め成長を感じることが出来た。また、保護者からも喜びの声が多数聞かれた。脳や身体機能を育む系統的なリズム遊びや絵本の読み聞かせを大切にし園目標でもある「よく見・よく聞き・よく考える」姿に導いていけるようにした。

4. 家庭支援

・在宅支援の一環として行っている子育てひろばや子育て講座は案内や子育て新聞を作成し、サポートセンターに掲示してもらったり、自園のホームページに掲載して幅広く地域の方に知って頂くことにより、利用者も多く年間で延べ500人程だった。その中で入園に繋がるケースや育児相談を受けることも増えた。在園児の保護者には、第三者評価利用者アンケートをはじめ、行事等でもアンケートを取り保護者が参加しやすい環境を整えていくよう努めた。子育てを家庭と園とで共に支えあうことをしながら在宅、在園の保護者支援に努めた。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
129 名	24 名	25 名	28 名	58 名	135 名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	3 名	4 名	5 名	9 名	21 名
	3月	2 名	4 名	5 名	9 名	20 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		97 名	アレルギー対応人数		11 名	
	内訳	インフルエンザ		29 名	内訳	単品	6 名
		水痘症		2 名		複合	5 名
		溶連菌		26 名		エピペン対応	0 名
		その他		40 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	93 件	内訳	保育中	90 件	その他	3 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日					発生状況	
	9 月 11 日	ままごと用のテーブルに乗り、背中から落ち、後頭部を窓のサッシでぶつけた。						
	発生場所	発生場所					発生原因	
	1歳児保育室	テーブルに登ることは危険だと声をかけていたが降ろすなど具体的な対策を講じていなかった。						
	対象	検討内容と対応策						
1歳児	テーブルに登っているときには、降りるよう声をかけて降ろす。また、行動の予測を行い目を離さないようにする。テーブルと窓の距離を離して安全な環境を作ることを心掛けた。							
2	発生日	発生日					発生状況	
	12 月 26 日	散歩で出かけた公園からの帰園後手に小さな玉のようなもの（ビービー弾）を握りしめていることに園長が気づいた。						
	発生場所	発生場所					発生原因	
	やまびこ公園	公園で遊んでいる子供たちの状況を把握してなかったことと公園を出る前に子供たちに持ち帰っていないかを声かけし確認しなかったことが原因。						
	対象	検討内容と対応策						
4歳児	散歩に行く際に事前に公園という公共の施設を使用する際の注意事項を子どもたちに話し、尚且つ公園を出る際には、子どもたちにポケットや手に何も持っていないかを確認してから帰園することを徹底する。							

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	2 回	12 回	12 回	12 回	8 回	7 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
14 回	525 名	6 校	7 名	2 校	9 名	17 回	11 名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自信を持てるよう成長の過程を全職員で見守る。 保護者との信頼関係の構築 職員のチームワークと資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの思いを受け留め「その暮らしさ」を大切に關わって来た。運動会、発表会等の行事では練習して来た事を自信を持って参加していた。 積極的に保護者へ声を掛け、些細な事でも話しやすい環境、関係作りを意識して接して来た。特に心が塞ぎがちな保護者には安心できる様な丁寧な対応を心掛けた。
<ul style="list-style-type: none"> 地域子育て支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろばの参加率は高く、多くの地域の方々に利用して頂いた。定期的な実施した出前保育も子育てひろばに参加している親子も楽しみに来てくれた。また、11月から開始した一時保育も好評で、直ぐに予約が埋まってしまう状況。地域の子育て家庭が保育園と繋がる事で孤育てではなく、楽しく子育てが出来るような支援を行いたい。
<ul style="list-style-type: none"> 安全、安心して過ごせる環境の提供 安全対策、危機管理、環境整備への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 不審者対応訓練では、実際に園庭側の門から不審者が侵入し職員が対応したが、あっけなく園舎内に侵入されてしまった。園外での不審者対応や刺股の使い方、園児椅子の効果的な持ち方を習った。玄関の電子錠について、大人が操作するように機会がある度に話している。地域の防災訓練と連携した訓練を相談している。

2. 養護

健康・病気

・12月上旬から耳下腺炎が流行した(17名)、3月に入りインフルエンザB型が流行した(13名)。熱も高くなりずづき難く、拡大した。一時保育の予約者にも流行中である旨を連絡したり、健康ボードを活用し保護者へ子どもの様子に注意するよう、知らせた。3月中旬頃、3歳児クラスに頭じらみの子が複数名出た。子ども達の心が傷つかないように十分配慮しながら保護者と協力しながら対応した。現在は居ない。

給食・アレルギー

・1ヵ月献立に変わり一年経過した。始めは毎日違う献立に(見慣れない献立)何となく落ち着かなかったが、年度も後半を迎えると一度は食べた献立も増えて、味のイメージが湧くようになった。行事食は、アレルギー児も皆と同じに食べられる食材を選んでもらい、一緒に楽しく食べる事が出来た。さや剥きや玉ねぎの皮抜き等、下準備で子ども達が出来た事を経験したことで給食が出来上がった時により身近に感じた様子。これからも継続して行きたい。

危機管理

・一日の大半を生活する場として、安全で健やかな生活が送れる事と子ども達一人ひとりの命が守られる事が大切であるという意識を持ち、全職員が取り組んで来た。様々な災害を想定した避難訓練ではあったが、万が一の時に備え更に見直しを加え実施した(散歩中に災害が起きた時、怪我人が出た際の避難、出火場所を事前に知らせない等)。日頃からの安全点検、ヒヤリハットの事例の検証と共有。これからも危機管理、安全対策の強化に努める。

3. 教育

・千本桜公園にある保育園の桜の木の開花を心待ちに肥料を与えたり、めだかの飼育を通じて稚魚が増えると喜んでる姿に生き物を大切に育ちを感じる。

・月2回の英語あそびでは異文化交流を伸び伸びと楽しみ、発表会で英語歌を歌い保護者から拍手を貰って自信に繋がった。園内研修の一環で造形絵画の講師による活動を3回入れた。大きな紙に絵具でダイナミックに描く経験や横長に繋げた模造紙にクレヨンで思うままに共同で描く経験は、新たな刺激となり良い経験となった。

4. 家庭支援

・外国人家庭も多く、言語コミュニケーションが難しく苦労している保護者に対しても孤立しないように気かけ、日本語が全くわからない祖父母の送迎も増えて来たので丁寧な対応を心掛けている。

・11月から開始した一時保育では、地域の方々から好評を頂いている。在園児と交流できる事も喜んで頂いている一因となっている。これからも安心して利用できるようにして行きたい。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
129 名	26 名	26 名	26 名	44 名	122 名

一時保育			
型名	スペース 型	定員	2 名
11～3月 登録人数	52 名	利用実績	164 名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	2 名	8 名	9 名	6 名	25 名
	3月	2 名	11 名	8 名	8 名	29 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		103 名	アレルギー対応人数		11 名	
	内訳	インフルエンザ		25 名	内訳	単品	7 名
		水痘症		名		複合	4 名
		溶連菌		8 名		エピペン対応	0 名
		その他		70 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	85 件	内訳	保育中	82 件	その他	3 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生状況				
	11 月 20 日	園庭、スロープ門の斜面で三輪車やスクーターで遊び出し、門扉にぶつかりそうになった。				
	発生場所	発生原因				
	園庭	スロープ門の前がコンクリートの斜面になっている、よく見かける光景だが、危険な遊びに繋がる場所など職員の意識が低かった。				
	対象	検討内容と対応策				
3 歳児	園庭で遊び際に危険な場所や遊びのルールを話し、スロープ門の方へ行かない事、門付近の斜面で遊ばないように職員も気をつける。スロープ手前にプランター等を置き、先へ行けない様にする。遊び終わったら、プランター等は忘れずに元の位置へ戻す。					
2	発生日	発生状況				
	3 月 26 日	遊戯室前の廊下に写真を見る為の長机が出ていた。保護者が見る期間は終了していたが長机を片付け忘れていた為、2 歳児が危うくぶつかりかけた。				
	発生場所	発生原因				
	廊下	子どもの大きさ・高さを考えた環境設定が保育室以外でも配慮が足りなかった。				
	対象	検討内容と対応策				
2 歳 男児	使用後の物は速やかに片付ける。安全を重視した環境設定を心掛ける。机の角にクッション材を付ける。					

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	1 回	12 回	12 回	4 回	21 回	6 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
16 回	634 名	5 校	13 名	1 校	2 名	5 回	5 名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 園児の気持ちに寄り添い、一人ひとりが認められながら「明日も保育園に行きたい」と思える保育 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの気持ちに寄り添う保育は、それぞれが努力して行っていたため、園生活の中で子ども達は自分らしく過ごせていたことは良い点である。保育はクラスの担任同士の連携が重要になるが、職員同士がお互いに寄り添い合うチームワーク作りが課題となった。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者目線に立ち、園児の成長を共感し合い、相談し合える関係作りに力を入れ保護者支援 	<ul style="list-style-type: none"> 改修工事があり、半年の間に保育室の移動が4回あったが丁寧に対応することでご理解をいただき、細かい対応が必要となったことでより保護者目線に立つ姿勢が習慣となった。
<ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりが主役となって保育が出来る環境作り 危機管理について更に共通の認識を深め、職員全員がどんな場面でも連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 工事による行事計画の立て直しが多くあったことが、話し合いの場を多く持つ事になり、意見を出し合うきっかけ作りが出来た。 ヒヤリハットを終礼で報告していたが、徐々に報告が減ってしまった。また、それを次に活かせる取組みが必要であると感じた。

2. 養護

健康・病気

<ul style="list-style-type: none"> 年末に嘔吐下痢が流行したが、それ以外は感染症が拡大することはなかった。工事により園庭が使用出来なかったため、各クラス毎や異年齢児での散歩に出掛けるケースが多く、たくさん歩き、戸外で良く遊んだことが体力作りへと繋がった。

給食・アレルギー

<ul style="list-style-type: none"> 卵アレルギー児が1名、宗教上の豚肉除去が1名であった。給食室の工事中はお弁当の提供となったが、給食業者、弁当業者とも連携をとり、給食提供と変わらない形でチェックが出来た。 食育については昨年度に引き続き梅干作りと味噌作りを行い、年長の子ども達の提案により工事業者の方々におにぎりや味噌汁を提供した。
--

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 工事期間が半年あったので更に注意を払って保育が出来たが、遊んでる最中に自分で転んで歯を打ったり、唇を切ったり、舌を噛んだりする怪我が目立った。工事後、園内は殆どが新しくなり使い方も変わったので、もう一度子どもの目線に立って危険箇所を見直していく。

3. 教育

<ul style="list-style-type: none"> 職員の保育実践に繋げていけるよう、講師による体育遊びを3回取り入れた。夏のプールの時期でもあったので、プール遊びが充実し、子ども達も職員と一緒に身体を動かす事を楽しめた。 異年齢児と合同生活も多くあったことが、お互いの刺激となり良い成長へと繋がった。
--

4. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 工事期間中、場所の都合と危険性を考え2回の子育てひろばを中止していた。4月入園の申し込みまでは行えた事もあり、その時期時は多くの方が参加していた。また、申し込み時期以外も昨年度よりも徐々に参加者も増えており、相談については殆どが入園申し込みについてであった。

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
118名	20名	23名	24名	52名	119名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	5名	4名	8名	6名	23名
	3月	4名	3名	9名	8名	24名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		109名	アレルギー対応人数		2名	
	内訳	インフルエンザ		20名	内訳	単品	2名
		水痘症		0名		複合	0名
		溶連菌		7名		エピペン対応	0名
		その他		82名		エピペン使用回数	0回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	75件	内訳	保育中	75件	その他	0件
----	-----	----	-----	-----	-----	----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日				
	11月14日	幼児トイレ使用時にとびらに指を挟み、帰宅して次の日に指が腫れ爪が変色				
	発生場所	発生原因				
	幼児トイレ	自分で扉を動かした際に挟んだ、その時には外傷は何もなかったため通院はしなかった。				
	対象	検討内容と対応策				
4歳男児	扉を片側に固定し動かない様に対応をとった。挟んだ直ぐ後、痛がってはいたが外傷がなかったため、保護者に説明をし様子を見てもらったが、爪は後に症状が出る事もあるので、その時に通院も必要である。					
2	発生日	発生日				
	11月4日	散歩中土手を走り転倒。その際に排水溝に額を打ち3針縫う裂傷。				
	発生場所	発生原因				
	園外(土手)	自分自身による転倒				
	対象	検討内容と対応策				
3歳男児	予想の付かない動きがある事を常に想定しながら、危険がないか散歩先の周りの確認をし、職員間で共通認識を図る。					

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12回	12回	1回	1回	13回	12回	6回	18回	8回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
14回	102名	3校	4名	2校	4名	0回	0名

1. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりを大切にでき、安心して意欲的に過ごせる保育園生活 	<ul style="list-style-type: none"> 乳児クラスは小集団で生活を組み立てた。安定して過ごせることや生活習慣を丁寧に身に付けられるよう環境を工夫したが、過ごしやすいところでは課題が残る。 幼児はリズム遊び、運動遊び共に楽しみながら日常的に行い、体力については実感できる部分もある。さらにすすめたい。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者の保育園理解 	<ul style="list-style-type: none"> お知らせを出す。保育参観の日に試食会を行う。保護者会は目的をはっきりさせて行う。個別に行う個人面談それ以外に必要なに応じて面談を行った。ブログは行事ごと。写真販売は日常を含め多く提供。 来年度は第三者評価を活かし、子どもの姿を語り伝えあう関係を目指したい。
<ul style="list-style-type: none"> どの職員もやりがいを感じられる仕事 	<ul style="list-style-type: none"> 全員で保育目標を理解する。リズムは年間4回行い、誰もが取組めるよう基礎研修を実施した。運動遊びについては子ども指導に講師を入れ、子どもが楽しみながら獲得すること。職員が学べるよう振り返り研修も入れた。どのクラスもその年齢で大切なことを学ぶことに重点を置いた一年目だった。

2. 養護

健康・病気

- 大流行の感染症はあまりなかった。(一番多かったのがヘルパンギーナ28名)玄関に大人用、手指消毒を設置した。
- 子どもたちは 区立時代から外遊びの後のうがいや食事前の手指消毒は徹底されて続けている。
- 頭ジラミが発生。お知らせを徹底するがなかなか終息せず、同じ子どもが繰り返す。

給食・アレルギー

- 野菜を多く取り入れた噛み応えのある給食を提供することができ、野菜、骨のある魚、ゴマ、乾物等をいつも食べられる。保育園での給食の良さを実感でき子どもたちもよく食べるようになってきている。
- アレルギー対応は6名。失敗の中から学び、工夫し点検するチェック体制を強めた。

危機管理

- 指導監査後に避難訓練計画を見直した。避難訓練の前に消防署の方が実施した訓練は心肺蘇生訓練、不審者訓練、通報訓練。外部機関の訓練は自分たちの知識以上のものを学べる機会だった。職員全員が子どもの命を守るために俊敏に動けるようになるためさらに努力したい。

3. 教育

- 保育目標を職員全員のものにし、子どもの生活は目標とブレないよう組み立てるため、職員の研修に力を入れた一年だった。与えたい課題やチャレンジさせたいもの、発達学習、子どもの捉え方、技術の研修等、子どものそばにいる保育士の質がとても大事だと思いそのための努力をした。
- リズムや体育遊びを好み、体を動かすことが好きな子どもたちになりつつあり、保護者も体力については評価してくれている。

4. 家庭支援

- 地域の子育て支援にこにこクラブは11回開催する。0歳児連れの母親が多かった。
- 園内は月1回のクラスだより、年2回の保護者会、個人面談を実施、目的を持って行うよう努力した。
- 行事ごとの感想をいただいているので、保護者の意見や思いを知ることができた。
- 第三者評価を受け、今後活かせるよう、様々な支援の力をつけたい。

□

5. 認可定員数・在籍・延長保育・一時保育 他（年間）

認可定員	在籍人数（運用人数）				
	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
138 名	25 名	26 名	27 名	62 名	140 名

延長保育	申請	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
	9月	4 名	2 名	5 名	10 名	21 名
	3月	6 名	2 名	5 名	11 名	24 名

6. 健康管理（年間）

感染症	登園許可書提出枚数		名	アレルギー対応人数		6 名	
	内訳	インフルエンザ		10 名	内訳	単品	3 名
		水痘症		5 名		複合	3 名
		溶連菌		7 名		エピペン対応	0 名
		その他		44 名		エピペン使用回数	0 回

7. ヒヤリハット（年間）

件数	52 件	内訳	保育中	49 件	その他	3 件
----	------	----	-----	------	-----	-----

主だった事例（保育中）

1	発生日	発生日					発生状況	
	5 月 13 日	アレルギー食の変更になっていた園児に対して(新たに卵が加わる)卵の入った汁物を一口食べてしまう。						
	発生場所						発生原因	
	保育室	新規申し送りの不備、卵除去を見落とす。						
	対象						検討内容と対応策	
	調理室内で調理者が変わり、卵について(新しく除去として加わったため確認ミスがあった)事務所も通過したのち気づいたこともあり二度と起きないようにチェック体制を強める。①献立確認は職員が集まり読み上げながらチェックする。②朝礼で読み上げる。③調理室、事務所、担任確認を徹底する。							
2	発生日	発生日					発生状況	
	5 月 28 日	食後の投薬を忘れてしまうことあり。						
	発生場所						発生原因	
	保育室	申し送りの不備による原因						
	対象						検討内容と対応策	
	一年を通じて4件くらい起きた。保育室内は子どものトラブルも多く、担任が休みで替わっているなど様々。どんな理由があるにしろ、うっかりミスしか言えない。①薬チェックは事務所で行う。②クラス内ボードに書く、声を掛け合う③飲ませたら知らせる。④12時半頃薬連絡帳を確認する等 習慣化した。							

8. 避難訓練・会議・研修（年間）

避難訓練				会議		研修		
避難訓練	消火訓練	引渡訓練	その他	職員会議	給食会議	園内	外部	法人
12 回	12 回	1 回	2 回	12 回	12 回	7 回	37 回	6 回

9. 地域交流（年間）

子育てひろば		実習		学生職業体験		ボランティア	
実施回数	参加人数	受入校数	受入人数	受入校数	受入人数	実施回数	受入人数
11 回	127 名	2 校	6 名	2 校	9 名	20 回	4 名